




論文審査及び最終試験又は学力の確認の結果の要旨

<p>① 乙</p>	<p>氏名</p>		
<p>学位論文名</p>	<p>Diagnostic difficulties and factors affecting diagnosis in acutely ill elderly Japanese patients living at home</p>		
<p>学位論文審査委員</p>	<p>主査 副査 副査</p>	<p>神田 秀幸 山口 修平 田邊 一明</p>	 印  印  印
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>わが国の高齢社会において、地域での在宅医療や病診連携の重要性は増してきている。在宅医療を受ける地域在住の高齢者における急性疾患発症時の診断の困難さは、家庭医が日頃から直面する問題である。そこで、本研究は、この状況における家庭医の診断困難の頻度とその関連要因を明らかにすることを目的とした。</p> <p>研究対象者は、岡山県北部の家庭医を育成する1つの医療機関で在宅医療を受ける地域在住の高齢者で、かつ2011年1月から2012年12月の間に他院に緊急入院となり最終診断が確定した症例とした。入院後の診療録の病名を最終診断とし、家庭医が臨時往診した際の初期診断とretrospectiveに検討を行い、診断に相違がみられた症例を診断困難と定義した。診断困難群とそれ以外の群と群間比較を行い、診断困難の関連要因の検討は多変量解析を用いた。</p> <p>この結果、研究期間に77症例（平均年齢85±7才）が研究対象者となり、このうち29症例（38%）に診断困難がみられた。診断困難群において、消化器疾患が統計的有意差をもって多くみられた。また在宅での内服薬が多いことは群間比較により診断困難群で有意に多くみられ、多変量解析（8剤以上）でも同様の結果が得られた。</p> <p>本研究結果は、地域での在宅医療を担う家庭医において、急な体調不良を訴える高齢者の診療の際、原因疾患が想定しにくい場合には消化器疾患の可能性をより想定すること、また在宅での内服薬が多い患者には原因疾病をより広く想定した精査を行うことを示唆していると考えられた。地域高齢者医療における家庭医の診断精度向上に寄与することが期待され、博士（医学）に値すると判断した。</p> <p>最終試験又は学力の確認の結果の要旨</p> <p>家庭医として経験した臨床課題から本研究を着想し、家庭医がもつ地域在住高齢者の急変時の診断困難に与える要因を明らかにした。家庭医の役割、地域医療連携に示唆を与える結果として意義深い。発表は的確で周辺知識も豊富であり、博士（医学）に値すると判断した。</p> <p style="text-align: right;">（主査：神田秀幸）</p> <p>家庭医の在宅医療での初期診断精度に影響する要因につき、地域での医療経験を基に行った後方的研究で、急性消化器疾患の診断の困難性、多剤服用の診断精度への影響を明らかにした。地域医療の充実に貢献する研究であり、関連する知識も豊富であり学位授与に値すると判断した。</p> <p style="text-align: right;">（副査：山口修平）</p> <p>申請者は自らが体験した在宅診療における高齢者の急性期疾患診断精度に関連する要因を明らかにし、在宅診療の取り組みにおいて重要な情報を発信した。周辺の知識も豊富で学位授与に値すると判断した。</p> <p style="text-align: right;">（副査：田邊一明）</p>			

（備考）要旨は、それぞれ400字程度とする。